

松戸の晶子歌碑

丘の上雲母(きらら)の色の江戸川
の見ゆるあたりの一むらの罌粟

うすものの女の友を待ちえたる松
戸の丘のひなげしの花

松戸の千葉大学園芸学部(旧高等
園芸学校)の創立百年にちなみ、市
民グループ「与謝野晶子の歌碑を建
てる一〇〇〇人の会」が、晶子が松
戸を訪れて詠んだ十首(裏面参照)
から人気投票で右の二首を選び、昨
年11月、学内に聳えるヒマラヤスギ
のそばに歌碑を建てた。

松戸六十首は、大正14年の「第二
十歌集、瑠璃光」などに掲載され、
大半が、あの可憐にして哀れな「ひ
なげし」を詠んでいる。

与謝野寛は、晶子の歌が「電撃的
な神速」で成ることを賛嘆していて、
その松戸ひなげし六十首も神速の気
配に圧倒される。

大正元年に、晶子は寛を追ってパ
リに行き、こう詠んだ。

ああ皐月仏蘭西の野は日の色す君も
雛罌粟(コクリコ)われも雛罌粟

コクリコはひなげしのこと。松戸



ひなげし六十首にはコクリコの残影は、
まったく見られない。神速・晶子は現
在を凝視している。

いと多く紅の扇を地に撒きて
華奢に終りぬ雛罌粟の花
ひなげしは、一日花である。

「与謝野晶子の歌碑を建
てる1000人の会」(松戸シ
ティガイド会長・石上瑠美
子)の人気投票は、一口10
00円で463名が協賛。

松戸駅東口のヨーカ堂を
右に15分、学内に入り、事
務棟の総務グループへ。

